

日本退職教職員協議会
県各単会 会長様

日本退職教職員協議会
会長 西澤 清

第2回日退教福島学習の旅

「福島原発事故から6年半－『福島』の今を福島で学ぶ」

「国が発表する東日本大震災の避難者数が4月以降、大幅に減少している。東京電力福島第一原発事故の影響で全国に避難した人のうち、「自主避難者」の避難先住宅の無償提供が3月末で打ち切れ、各市町村が自主避難者の多くを「避難者」に計上しなくなったためだ。ただ、多くは避難生活を続けているとみられ、自主避難者やその支援者からは疑問の声も上がっている。災害救助法に基づき、避難指示区域外からの自主避難者にも避難先の住宅が「みなし仮設」として無償で提供されてきたが、この制度が3月末で打ち切られた。福島県は『『みなし仮設』の供与が終わった自主避難者らを数から除いた」。神奈川、埼玉県も「減った大半がみなし仮設の供与が終わった自主避難者」と説明する。住まいは変わっていなくても、避難者としてカウントされなくなった人が多くいるとみられる。

福島県いわき市から埼玉県内に家族4人で自主避難している女性（43）は憤る。「放射能の影響が怖くて福島には帰れないのに、国からは『避難者じゃない』と見捨てられたと感じる」（8月28日 朝日新聞）」

電力各社は福島第一原発事故そのものの検証が今も不十分なまま、原発再稼働を進めようとしています。最終核廃棄物処分場も決定していないなど事故の責任後始末は全く不十分です。政府は避難指示解除を無理やり進め「復興」を印象付けようとしています。

日退教は昨年、福島の被災の現況をあらためて学習し、脱原発社会の実現をめざす運動の一環として、現地福島県退教の協力を得て、日退教福島スタディーツアを実施しました。昨年に続き、第2回学習の旅を下記日程で実施いたします。各単会会員の皆様の積極的な参加を要請いたします。

記

- | | |
|----------|---|
| 1 日 時 | 2017 年 11 月 19 日（日）～20 日（月） |
| 2 会場・宿泊 | 福島県飯坂温泉 公立学校共済組合飯坂保養所 あづま荘 |
| 3 行程（予定） | <u>11 月 19 日（日）</u>
13：30 受付（あづま荘・学習会会場）
14：00～16：30 講演・学習会
報告 1「原発事故と南相馬の現状」（仮） |

報告者 木幡忠幸さん

(原発いらない・放射能から市民を守る会 事務局長、
鉄道退職者の会原町支部長) 福島県教組組合員 (予定)

報告 2 「放射線教育の課題と福島における教育現場の現況
(仮)」

報告者 佐藤 毅さん

(福島県教組 福島支部長 福島市立信夫中学校教員)

18:00 交流懇親会

宿泊

11月20日(月)

8:30～ あづま荘発 バスにて被災区域へ

車中現地退教のみなさんから現況・課題等の講話があります。
午前中、長谷川健一さん(飯舘村 酪農家)の牧場に寄り、お話を聞きます。

午後のコース検討中です。

※ 長谷川健一さん

1953年福島県飯舘村生まれ。酪農家として牛や猪を飼い、暮らしてきた。福島第一原発事故による放射能汚染を知り、いち早く区長を務める飯舘村前田地区の住民集会を開いて現状を説明し、被曝を避けるための対処法を知らせた。以後飯舘村の映像を記録し続け、日本国内はもとより海外にも出かけて、飯舘村で起きていることを知らせる活動を展開している。著書に『原発に「ふるさと」を奪われて～福島県飯舘村・酪農家の叫び』(宝島社)等がある。

16:30 福島駅(予定)着 解散

4 募集人員 35名(先着順とさせていただきます)

5 費用 2万円
1泊3食(交流懇親会・視察時昼食弁当含む)、バス代・講師謝礼等全て含む。

6 申込・締め切り 10月20日(金) 別紙申込用紙にてFAXでお願いいたします。

7 その他 (1) 当日あづま荘集合となります。
(2) 基本的に男女別相部屋となります。
(3) 詳細は参加者に別途連絡いたします。

以上

第2回日退教福島学習の旅

「福島原発事故から6年半－『福島』の今を福島で学ぶ」

参加者申込み名簿

申し込み日 2017 年 月 日

単会名	
連絡責任者	

参加者お名前（年齢）	(〒) 住 所	電話《できれば携帯》	Fax
()	(〒)		
()	(〒)		
()	(〒)		
()	(〒)		

参加者申し込み締め切りは 10 月 20 日（金） です(先着順とさせていただきます)

日退教 FAX 03-5275-2081